（別紙６） ［認知症対応型共同生活介護用］

１． 評 価 結 果 概 要 表

作成日 平成22年3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	０９７２３００４４６		
法人名	医療法人社団友志会		
事業所名	グループホーム森の舎		
所在地	栃木県下都賀郡野木町南赤塚１２１８－８ （電 話）０２８０－５７－９８７６		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草１－１０－６		
訪問調査日	平成22年2月9日	評価確定日	平成22年3月31日

【情報提供票より】（平成22年1月20日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成11年3月29日，平成12年4月1日，平成13年4月1日	
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計 27 人
職員数	6 人 6 人 6 人	常勤6人，常勤換算6人 常勤6人，常勤換算6人 常勤5人，非常勤1人，常勤換算6人

（２）建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	60,000 円	その他の経費（月額）	・理美容代ー2,000円 ・おむつ代ーﾊﾟｯﾄ50円，ｵﾑﾂ80円，ﾘﾊﾋﾞﾘﾊﾟﾝﾂ160円 ・日常生活費ー20,000円	
敷　　金	無			
保証金の有無（入居一時金含む）	無	有りの場合償却の有無	―	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,330 円			

（４）利用者の概要（平成22年1月20日現在 ）

利用者人数	26 名	男性	3 名	女性	23 名
要介護１	3 名	要介護２	4 名		
要介護３	11 名	要介護４	6 名		
要介護５	2 名	要支援２	名		
年齢	平均 87.1 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	花の舎病院，緒方歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、平成11年から順次開設された県内で最初に整備されたグループホームである。３ユニットはそれぞれが独立した棟となっており、「大地の舎、太陽の舎、樹木の舎」のユニット名が表すとおり、入居者がすみなれた地域での暮らしを支える家としての役割を兼ね備えた家庭的な造りとなっている。ホーム周辺は自然豊かな環境に恵まれ、敷地内には畑や花壇や動物舎があり閑静な住宅地にも隣接している。また、隣接する敷地には、同法人の病院や介護老人保健施設があり、医師や看護師、理学療法士等との連携による医療や災害時等での支援体制が構築されており、入居者の安心・安全に繋がっている。地域との関係づくりにも積極的に取り組んでおり、入居者がその人らしく地域の一員として生活できるように支援しており、地域に密着したホームとなっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の外部評価の結果ついては、３ユニット合同ミーティングや運営推進会議等で話し合い、改善に向けた取り組みに活かしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	今回の自己評価は各ユニット毎に職員間で分担して意見を出し合い、それぞれのユニットリーダーがまとめ、最終的に管理者がまとめあげている。職員は、評価の意義を理解しており、日々の支援の確認や気付きの機会としている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議は２ヶ月に１回開催されており、入居者の暮らしぶりやホームの行事や運営状況、外部評価結果や改善に向けた取り組み等の報告を行っている。また、各参加者からの意見や助言は速やかに日々の支援に取り入れるようにしており、サービスの向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	家族会の開催時に意見や要望を聞いたり、家族が気軽に意見や要望が表わせる雰囲気づくりに努めている他、意見箱も設置されている。重要事項説明書にはホームの苦情受付窓口に担当者の他、外部の苦情受付機関も明記されている。また、併設の介護老人保健施設の相談員も苦情等に対応出来る体制を整えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	ホームでは自治会に加入しており、地域の神社で開催される菊祭りに出かけたり、自治会と共催で開催する夏祭りでは、隣接する同法人介護老人保健施設の駐車場で実施しており、毎年、地域から多数の参加があり、交流が行われている。ホーム周辺を通りかかった地域の住民が挨拶をしてくれたり、入居者が散歩中に挨拶をするなど、ホームと地域との関係は良好なものとなっている。

2. 評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営 **1．理念と共有**					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったりと、楽しく、自由にありのままに、いっしょのケア、ケアされるケア」を独自の理念として掲げている他、各ユニット毎にそれぞれに年間目標や3カ月目標を定めており、地域の中でその人らしく人格を尊重した適確なサービスの実践に向けた理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念や目標は職員がいつでも確認できるよう、事務室内に掲示をしている。また、朝・夕の申し送り時を利用して理念等の確認を行っている他、毎月実施している３ユニット合同のミーティングにおいても理念や目標の共有に努めており、管理者及び職員は理念の実践に向けた取り組みに活かしている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームでは自治会に加入しており、地域の神社で開催される菊祭りに出かけたり、自治会と共催で開催する夏祭りでは、隣接する同法人介護老人保健施設の駐車場で実施しており、毎年、地域から多数の参加があり、交流が行われている。ホーム周辺を通りかかった地域の住民が挨拶をしてくれたり、入居者が散歩中に挨拶をするなど、ホームと地域との関係は良好なものとなっている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果ついては、３ユニット合同ミーティングや運営推進会議等で話し合い、改善に向けた取り組みに活かしている。今回の自己評価は各ユニット毎に職員間で分担して意見を出し合い、それぞれのユニットリーダーがまとめ、最終的に管理者がまとめあげている。職員は、評価の意義を理解しており、日々の支援の確認や気付きの機会としている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は２ヶ月に１回開催されており、入居者の暮らしぶりやホームの行事や運営状況、外部評価結果や改善に向けた取り組み等の報告を行っている。また、各参加者からの意見や助言は速やかに日々の支援に取り入れるようにしており、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームと町との連携については、運営推進会議への担当職員の参加や避難訓練における町の協力、認知症サポーター養成講座実施における協働、町の介護教室への講師派遣等、町と共に協力しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
４. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや日常の様子、健康状態等の家族への報告は来所時に口頭や電話等で報告している。ユニット毎に行事等の写真入りの広報誌「たより」を年４回発行しており、家族へも送付している。家族会も年４回開催されており、職員異動の報告も行われている。金銭管理については、３ヶ月毎に郵送で家族に報告をしており、確認印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催時に意見や要望を聞いたり、家族が気軽に意見や要望が表わせる雰囲気づくりに努めている他、意見箱も設置されている。重要事項説明書にはホームの苦情受付窓口に担当者の他、外部の苦情受付機関も明記されている。また、併設の介護老人保健施設の相談員も苦情等に対応出来る体制を整えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	本年度は職員１名の異動があったが、同法人内での異動であり、時々ホームに寄ってくれることから、入居者の動揺は見られない。家族には家族会等で報告や紹介を行い、理解を得るようにしている。また、職員は入居者の情報交換を密にして、異動等がある場合においても入居者のダメージが出ないよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では採用時の新人研修や内部研修を定期的に開催している他、ホーム内での勉強会も定例化されている。外部研修やグループホーム全国大会にも職員の段階を踏まえて、各棟から順次参加をさせている。受講した内容は月１回の合同ミーティング等で伝達しており、職員のレベルアップと知識の共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームでは県グループホーム協会の事務局を担っており、ネットワークの中心的存在となっている。他事業所の職員研修を受け入れている他、ホーム独自でも職員交流会を行う等、同業者との情報交換や相互訪問をとおしてサービスの質を向上させる取り組みに活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたっては、見学を随時受け入れており、本人の思いや要望を尊重しながら、家族とも相談をして、１日数時間の体験利用やお試し入居等を実施している。本人や家族が安心し、納得して入居でき、徐々にホームの生活に馴染めるよう、状況に合わせた工夫をしている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者と共にレクリエーションや趣味、調理や清掃等の日々の暮らしの中で風習や昔の話を聞いたり、生け花を教えてもらう等、入居者から学ぶことも多い。また、職員も一方的な支援者にならずに入居者と楽しみながら、共に学び、支え合う関係づくりに努めている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1．一人ひとりの把握**					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、入居者との日々の関わりの中から、声かけや見守りにより、一人ひとりの表情やしぐさを観察することで、思いや意向の把握に努めている。思いや意向の表出が困難な場合には、今までの生活歴や家族からの協力も得ながら本人本位の支援に努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては、本人や家族からの意見や要望の確認を行い、職員の気付きや医師、看護師等からの助言を参考にして介護計画を作成している。新しい入居者には、本人の様子を見ながら状況に合わせて微調整を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	３ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。また、入居者の体調に変化があった時には、医師等からの助言をもとに随時見直しも行っている。見直しの際は、家族に新しい介護計画の説明を行い、同意の確認をもらっている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営法人が医療法人であり、隣地にある同法人の病院や介護老人保健施設の医師、看護師、理学療法士等により、医療面やリハビリでの連携が図られており、本人の状態に合わせて適切な支援が受けられる体制になっている。医療連携体制加算の指定を受けている。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームでは隣接する同法人病院を協力医療機関としており、入居時に本人、家族の同意を得て、かかりつけ医を協力医療機関に変更してもらっている。２週間に１度主治医の往診があり、家族にも主治医から診察状況等の説明が行われている。また、本人や家族から要望があれば、希望する他の医療機関での受診も可能であり、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重症化対応・終末期ケア対応指針」が作成されており、ホームでの看取りも対応出来るようになっている。重度化した場合の対応方法の希望を本人や家族に確認したうえで、状況により主治医や看護師、職員間での話し合いをとおして、希望に沿った支援が出来るよう全員で方針を共有し、対応に努めている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **(1)一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないよう、言葉かけや日々の支援においては、尊重を心掛けている。個人情報等記録類はスタッフルーム内のロッカーに保管しており、ホームの個人情報保護の方針も掲示している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの基本的な一日の流れはあるが、日課等は特に決めていない。入居者は午前中は散歩、レクリエーション、午後はお風呂、お花、手芸等、思い思いに過ごしている。入居者一人ひとりのペースを大切にし、本人の求めを確認し、希望や訴えに応じた支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容（すでに取組んでいることも含む）
（２）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者と同じ物を会話を楽しみながら食べており、食事の準備や後片付けも一緒に行われている。誕生日会では月一回の外食をしたり、季節や年間行事にあわせて変化にとんだ食事が提供出来るよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者一人ひとりの希望や体調等にもよるが毎日、入浴が可能な体制になっている。楽しめる支援をしており、入居者の中には唄を唄いながら楽しんで入浴する入居者もいる。体の不自由な入居者は特殊浴槽で入浴するなど、安全で安心な入浴支援をしている。		
（３）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者には食事作りや、庭の草取り、レクリエーション、散歩、唄等、それぞれが一人ひとりの状態に合った、役割、楽しみを持っている。味噌汁作りが得意な人、お花・お茶の先生だった人もおり、作品を披露してもらっている。職員は入居者が日々の喜びや楽しみが持続できるよう支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の体調や気象条件等に配慮しながら散歩や買物の支援をしている。月１回の外食や、家族参加の日帰り旅行も実施しており、外出する機会づくりに努めている。		
（４）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には施錠をしておらず、センサーが取り付けられており、人が出入りするとチャイムが鳴るようになっている。職員の見守りと声かけにより鍵をかけないケアの実践に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中や夜間を想定した避難訓練を３ヶ月毎に実施している。隣接する介護老人保健施設や自治会等からの協力及び連携体制が構築されており、入居者の安全・安心につながっている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設されている介護老人保健施設の管理栄養士のアドバイスのもとにカロリーや栄養バランスを考慮した献立を作成している。個々の食事摂取量や水分摂取量を記録しており、適切な栄養摂取や水分確保ができるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	独立した３ユニットは、和風や洋風、レイアウト等、それぞれに趣が異なっているが、それぞれが家庭的な雰囲気に仕上げられている。リビングにはゆったりとした空間が設けられ、ソファー等で入居者同士が談笑をしたり、新聞や本を読んだりしながら思い思いに過ごす姿が見られた。壁や廊下には絵画や入居者の作品が飾られ、明るい日差しと窓の外の木々に季節を感じる、居心地よい空間づくりがなされている。換気等も配慮されており、空気のよどみや不快な臭いは感じられない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時等に本人や家族に使い慣れた家具類や生活用品等の持ち込みを促している。各居室には、箪笥や仏壇、テレビ等や家族の写真、自分の作品等が飾られており、各々に個性的な居室づくりが行われている。職員は、入居者が居心地良く生活出来るよう本人や家族と相談しながら支援に努めている。		

※ 　は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。